図書館通信

令和五年 五月号

☆石川先生（商業科）のオススメ本　紹介☆

　ルーズヴェルト・ゲームとは「点をとられたらとりかえし、８対７で決着する試合」のことです。野球を愛したアメリカの第３２代フランクリン・ルーズヴェルト大統領が「一番おもしろいゲームスコアは、８対７だ。」と発言したことからこの名前がつきました。この作品は、ＴＢＳ日曜劇場でドラマ化もされました。かつての名門野球チームだった青島製作所野球部。新監督が懸命にチームを立て直し、ようやく選手も前向きになったそのとき、親会社は不況に立ち向かうため、聖域なきリストラを決めました。そのターゲットになったのが青島製作所野球部だったのです。

　この物語には３つの戦いがあります。１つ目は野球の試合、２つ目は野球部存続をかけた社内反対派との戦い、そして最後は会社が危機を脱するかどうかの戦いです。企業スポーツは何のためにあるのか、会社は誰のために存在するのか。時には自分の好きなスポーツチームやアスリートを思いながら、また時には自分のことについて考えながら、この素晴らしい物語をぜひ味わって下さい。手に汗握る展開と最高に爽快な結末に、きっとご満足いただけるはずです。

⚾野球小説特集！⚾

　見るものを皆熱くする「野球」は、昔から数々の小説のモチーフになってきました！　今回石川先生が『ルーズヴェルト・ゲーム』という野球小説の名作を紹介してくださいましたね。せっかくなので、他の野球小説も紹介していきたいと思います！　野球部必読！

『スローカーブを、もう一球』（山際淳司）

　群馬県で野球小説を紹介するならこの一冊は欠かせないでしょう！　群馬県立高崎高校というと、頭のいい進学校というイメージが強いと思いますが、甲子園出場校なのをご存じでしょうか？　すごい監督がいたのか、というとそうではありません。監督に就いたのは野球歴たった３ヶ月の教師でした。では剛速球を投げるピッチャーがいたのか、というとそうでもありません。当時の高崎高校のピッチャーのキメ球はなんとスローカーブ！　遅い球でバッターのタイミングをずらす作戦で甲子園まで行ったのです！　ことの顛末を知りたい人はぜひご一読を。

『野球が好きすぎて』（東川篤哉）

　次は変わり種を一冊。『謎解きはディナーのあとで』で有名な推理作家、東川篤哉の野球本を紹介しましょう！探偵役は広島カープ命のカープ女子。そして次々起こる事件は皆、現実の野球界で起きた事件を元にしていて、長年の野球ファンでないと気づけないような小ネタも満載！文体もコミカルなので読書が苦手な人にも読みやすい！　野球好きもミステリファンも楽しめる一冊です。野球大好きな作者は他にも『放課後はミステリーとともに』等、野球部をテーマにしたミステリも出しているのでこれもぜひ！